



「地域で頑張る」その後 今治市吉海郷土文化センター 渡辺裕子さんたち頑張る!



生家を活用した個人美術館を話しを戻す。この仁根の作品が展示されているのが、今治市吉海郷土文化センター。吉海バラ公園の一郭にある。かつては野間仁根美術館と称すべく職員が運動もしたらしいが、諸々の理由で実現できず今日に至っている。実は吉海には仁根の生家が残っている。なんとかそこを活用して個人美術館ができないものか。

仁根に関する収蔵作品は百号の大作2点をふくめ83点ほどそれが個人美術館としての分量としては間に合うのか、あるいは少ないのかは定かではないが、地方における文化事業の情報発信は、ごく少数を除き多くが停滞を余儀なくされているのではないかと思えるところだ。

五月に入ると夏支度にかかる。まず去年採った朝顔の種をまく。ゴーヤでもヘチマでもだめ。花のきれいな朝顔が一番。十年以上も窓際にはわけていた。部屋の中は少し暗いけど涼しい。早朝散歩をしている人が「あら、今年も綺麗に咲いて」と。はずんだ声を聞くのもいいものだ。

次は網戸とカーテンを洗う。部屋の建具をはずすと表から風が抜けるのがわかる。はずせばひとつの部屋に、はめればいくつかの部屋になる。昔の人はほ

あいつち 四九

青木喜代子



んと偉い。この度のリフォームの際夫が土管と樋をつないでくれた。雨が降ると大量に貯まり感激。私は敬意を表して青木ダムと呼んでいる。夏の盛りには水やりにも

極楽

我儘の坊主

打ち水に活躍しそうだ。水をまいた後のあのにおいが好きだ。息子は夕立のにおいが好きだ。ついでに。陽が落ちたら裏に水をまき、座敷に蚊帳をつつて寝る。

確かにバケツで水を運ぶのは暑い。蚊帳をつるのは手間がかかる。でもね、東北震災の後、確信を持ったの。人間、横着をせずに少しは汗をかかんといいから原発をすべて廃炉にして下さい。トルコに売つたりしないで下さい。誰もコントロール出来ないし、責任なんて取れつこないんだから、お願いします。

五月下旬に三十度を超えた。夫が汗を流しながらすだれをつつてくれた。「今年もクーラーなしで行けるか・・・」って。足元で朝顔はすくすく伸びている。「今年もいい仕事しますよ！」って。

いま、野間仁根記念室の展示がおもしろい

絶賛開催中!
 来年3月22日まで

野間仁根と山内靖巳
 野間仁根(ひとね・明治34年生、昭和54年没)は現・今治市吉海町出身の洋画家である。大正3年、現・今治西高卒、大正15年、現・東京芸大卒。

戦前は二科会が活躍、戦後は二科会を離れ一陽会を結成活動した。一陽会には我が町弓削島出身の洋画家山内靖巳(はるみ・大正5年生、昭和44年没)さんも会友として属し、その奔放な作風は野間作品に通じるものがある。



美術館は博物館の一種とされており、法的には博物館法の適用をうけるようである。たとえば、法があっても認定や登録を得るのは容易ではない。そうした中で郷土の生んだ偉大な芸術家の事績をどう後世に伝えてゆかかを考えたとき、実は相当に困難な道なのであることは容易に想像できる。そうは言っても何もせず時の推移に任せるでは、地方の文化的情報の発信はますます

す貧相になるだろう。好きこそものの上手なれ。過日、所用があつて伯方島を巡った。思い立って吉海町にも足を伸ばした。シーズンであるバラ公園が目的ではない。久しぶりに野間仁根の作品に触れたかったからだ。

この展示施設についてはかつて弓削通信で取り上げたことがある。(平成19年6月号) 家人が共著「日本全国ユニーク個人美術館・西日本編(平成20年・新人物往来社刊)」の原稿を書く際の取材に運転手として同行、そのときのセンター職員渡辺裕子さんの並々ならぬ仁根に寄せる情熱に感じ入り、改めて取材、仁根作品の置かれた状況を紹介させていただいた。あ

れから7年。もうその方も退職、あるいは配転になつていようかと考えていた。なんと、あのときの情熱をさらにパワーアップされた活動をされていた。これにはびつくりで彼女の仁根の作品世界をいかに多くの人々に、ことに子どもたちに伝えることに熱々と燃えている姿に圧倒されたのであった。

いよいよ始まった施設の淘汰。このたびの展示は、仁根の作品に登場する動物などを廃品などを活用して立体表現し、元の作品と一緒に展示し楽しむという趣向。出来映えの素晴らしいは是非訪問して堪能していただきたいが、画家に劣らぬ情熱でもって作品世界を立体的に表現しようというのには、すでに施設の臨時職員のレベルを超えている。センターそのものの存在すら整理の対象になりかねない現況にあって、文化施設のランクづけが利用者数の多寡によって判断され、その結果存廃が取り

情熱なくして政策はない
 かかわる人々の情熱なくしては政策もありやうが無いが、現場の情熱を受け止める側の価値観が、じつは大きく問われているのではあるまいかと思えることでもあった。さて翻って我が町での文化対策はどうであろう。(平山和昭)

余談だが、昨年その山内氏の回顧展を弓削で開催したいと考えたが、すでに遺族の手元には作品は殆ど無く、したがってまとまった作品を一堂に集めるのは素人の力量では困難なので断念した。2012年1月には東京で「幻の画家山内靖巳絵画展」が開催されたりしているの、業界では高い評価を得ているのである。

●吉海郷土文化センターでは吉海出身の画家「野間仁根」画伯の作品、愛用の道具、地元ゆかりの武具・民具などの資料を展示している。

美術館は博物館の一種とされており、法的には博物館法の適用をうけるようである。たとえば、法があっても認定や登録を得るのは容易ではない。そうした中で郷土の生んだ偉大な芸術家の事績をどう後世に伝えてゆかかを考えたとき、実は相当に困難な道なのであることは容易に想像できる。そうは言っても何もせず時の推移に任せるでは、地方の文化的情報の発信はますます

れから7年。もうその方も退職、あるいは配転になつていようかと考えていた。なんと、あのときの情熱をさらにパワーアップされた活動をされていた。これにはびつくりで彼女の仁根の作品世界をいかに多くの人々に、ことに子どもたちに伝えることに熱々と燃えている姿に圧倒されたのであった。

いよいよ始まった施設の淘汰。このたびの展示は、仁根の作品に登場する動物などを廃品などを活用して立体表現し、元の作品と一緒に展示し楽しむという趣向。出来映えの素晴らしいは是非訪問して堪能していただきたいが、画家に劣らぬ情熱でもって作品世界を立体的に表現しようというのには、すでに施設の臨時職員のレベルを超えている。センターそのものの存在すら整理の対象になりかねない現況にあって、文化施設のランクづけが利用者数の多寡によって判断され、その結果存廃が取り

今泉光司監督作品
 まるい地球の上映会

チャリティ2本立て(無料)
 ・6月16日(月)19時～
 ・会場:せとうち交流館

①福島正信インドへ行く
 自然療法提唱者福島正信さんが1977年インドを訪れた時のドキュメンタリー。

②巨大台風ヨランダ上陸
 2013年11月8日、レイテ島を襲った巨大台風ヨランダの現地調査の映像。

主宰:まるふ農園(古川優哉)
 協力:頼れるふるさとネット

3月定例議会 議案修正

平成26年度3月定例議会で、上島町議会は海の駅舎新築工事関連予算1,272万4千円(設計調査費・旧庁舎解体費)および愛媛国体にかかる生名スポーツ公園野球場改修工事関連と、生名し尿処理場及び旧生名焼却設備解体関連予算、計1億3501万4千円を修正削除しました。新聞報道等でも大きく取り上げられ、また町内外の話題にもなっていますが未決着で推移しているのが現時点での報告に止めます。

海の駅舎新築事業関連

「海の駅舎」に関しては旧消防庁舎(弓削)を解体し跡地に海の駅舎を新築しようというもので、理事者説明によれば既に設置している海の駅(浮き桟橋)との相乗効果で交流人口の増大が期待できるというものでした。議員からは町内に新たな施設が必要との機運も生まれていず、先々の運用やその効果のほども不透明な中、既存の施設の有効活用で当面は間に合うはずとの修正動議が出され、この関連予算案は認められませんでした。

海員組合を創った男・探訪

濱田國太郎顕彰準備会 (2)

日本海員組合をつくった濱田國太郎はどのような人だったか。その時代背景です。明治6年生まれ、國太郎が誕生したころの日本は、西郷隆盛の征韓論に端を発した政変が中央政府でおこり、近代国家としての歩みを始めた日本としては、朝鮮問題、台湾問題、中国問題、ロシア問題と様々な外圧や内政問題に追われていました。

明治18年、生名島を襲った大台風の被害で実家が没落。自らの生きる道を船乗り求めた12才の國太郎。ニューヨーク港にはアメリカの独立百周年を記念して、独立運動を支援したフランスから自由の女神像が到着しました。日本のみならず世界のいたるところで近代化の波が拡大していた時代でした。

國太郎が最初に給仕として乗り組んだのは帆船だとされますが、3年後には汽船小杉丸に石炭夫、火夫として乗船しています。(海父・濱田國太郎・村上貢著参照)



給仕、石炭夫、火夫はいわゆる下級船員で「聞き書き海上の人生・大正昭和船員群像」(海員史話会著・1990年社団法人農山漁村文化協会刊)には、当時の色々な船員の様子が記録されています。「給仕はかしき・めしたきと呼ばれ、わしの仕事はその名の通り飯炊きのほか雑用一切やらされる見習い小僧ッ子だった。まともな飯は食わせてもらえなんだ。釜の底についているこげめしと釜を洗ったときの洗い汁に浮いている米粒をすすっていた。おかずは毎日わかれの切り干し・・・」「石炭夫はコロッパスと呼ばれボイラーの石炭庫に途切れないように石炭を供給する。火夫がそれを使って火をどんどん焚くが、一定時間がたつと石炭夫がカスを掻きだす。カスにはまだ火が入っていて水のかけ方が悪いと怒られたものだ。掻きだしたカスは大きなバケツに入れデッキに運び出し船外に捨てた。石炭夫から火夫になるには3年はかかった。火夫は重労働で1時間働くと1時間休憩した。こうしないと身体がもたなかった・・・」

議員活動録

(17) 議會議員 平山和昭

愛媛国体事業関連
 愛媛国体については、成年男子軟式野球の生名スポーツ公園野球場での開催(2日間。6試合)にむけ球場を国体仕様様に改修すること、球場に隣接する旧生名屎尿処理場および焼却施設を解体するにあたり、跡地利用として野球場サブグラウンドの整備を計画したものでした。他の成年男子軟式野球会場は、浜公園川之江野球場(四国中央市)・新居浜市宮野球場(新居浜市)・西条市ひうち球場(西条市)・西条市東子運動公園野球場(今治市)です。

予算の伴う施策は、最終責任は議会に帰せられる。ならば大きな事業は事前に議会への相談が必要ではないのか。



第72回愛媛国民体育大会・成年男子軟式野球場の会場予定地、生名島蛙石野球場全景

何が問題となっているのか
 愛媛国体は平成29年開催で県の募集に上島町が手を上げ、平成16年内定、19年確定したとされるものですがここに至って本会議の質疑で問題が明らかになったのは、当面の予算以外に球場整備及び運用に係る費用が今後どのくらい膨らむのかわからない試算が示されたいこと。(理事者答弁では運用経費は増えないとするが、あり得ない)老朽化し4千万円を超える運営費以外に1千万円か修理費の投入を毎年続けているスボレク施設を今後どうするのか納得出来る説明がなされない。他の会場自治体にくらべれば格段に財政基盤の貧弱な我が町が球場整備までして受け入れる必要があるのか。25年もすれば人口激減が予想される将来に対する取り組みのほうに国体参加より優先されるべきではないか、などです。さらに遡って国体会場として参加することに関し、将来必ずや経費に関し議会の議決が必要であるにもかかわらず事前にその可否について議会に打診がなかったこと。会場に内定された



おてがみ 村上 さん
 さわやかな風が吹いて五月も終わり近くにりました。五月のフエニックスを拝読しますと、生名の國太郎さんの銅像公園の草刈りをしてくださりました由、ありがとうございます。今にして思えば歴代の校長先生に語りつぐべきだったかも知れません。フニ、タイマイ(カメ)、タラバガニの標本もどうなっているか案じられます。毎月フエニックスをありがとうございます。楽しみによませて頂いております。今朝四階の手すりに鳩がしばらく休んでおり嬉しかったです。では又。

時点でも、その報告が議会に対して(町民に対しても)無かったこと。したがって現在でも国体が上島町で開催されることに町民の関心は高いとはいえない。この原稿を書いている時点で、国体参加問題はなお決着がつかないままですが、どういう形に納まるにしろ、わが町の議会は議案の否決や修正の経験を通りかかるとは、真に町民の側に立つ議会となるための脱皮を繰り返していかなくてはなりません。次回報告では、混迷を深めているかに見える議会の現状について、その理由について明らかにできると思っています。

新刊書紹介

【おもしろいっばい】
 「フーちゃん先生と因島・重井の子どもたち」
 文・正路玲子 絵・国本りか
 せせらぎ版
 ① ¥1,000
 ●昭和13年から18年まで因島重井町の国民学校の先生だったフーちゃん先生と子ども達の物語。
 ※絵も文章も素晴らしい

やよみ亭【映画研究会】

6月15日(日)午後7時~ 無料
 「夕陽のガンマン」
 ●主演:クリント・イーストウッド、イタリア製マカロニウエスタン。●1965年
 ●二人の賞金稼ぎが麻薬中毒の凶暴なギャングの首にかけられた賞金を狙う。『荒野の用心棒』の大ヒットで実力を認められたレオターネが、前作を大幅に上回る予算を付けられて製作した。



NPO 繋がるふるさとネット
★出よう会
 毎月第2,3火曜日午後1時から3時頃まで
 活動趣旨: 家に籠もらない為の地区のお年寄り達の交流会です。6月は10日と17日。7月は9日と16日。やよみ亭(先)と土生集会所(後)で開催しています。問い合わせ 0897-72-9188